

平成28年

# 年頭あいさつ



新年明けましておめでとうございます。  
町民の皆様には、ご家族お揃いでお健やかに  
新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。  
昨年中は、町政の推進につきまして、温かい  
ご理解とご協力を賜りましたこと、  
厚くお礼申し上げます。  
本年もどうぞよろしく願います。

飯南町長 山碕英樹

昨年の日本の経済は、緩やかな回復基調が続いているとされていましたが、本町ではその効果は乏しいものでした。また、天候不順により、米の作柄も不良となるなど、町民の皆様には何かとご苦労の多い一年であったことと思います。

そうした中、1月には「合併10周年記念式典」を挙行いたしました。町民みんなが、住みなれた本町で安心して暮らし続けるために、皆で、今後もあらゆる可能性に挑戦を続け、懸命の努力を重ねていくことを誓い合ったところです。

そして、4月には新庁舎の建設に着手し、10月には頓原基幹支所の整備に着手いたしました。

一方、飯南高校では、報道部が5年連続でNHK杯全国高校放送コンテストに出場し、創作ラジオドラマ部門で全国3位、ハンドボール部は全国高校総体に出場、吹奏楽部は中国大会に出場し銀賞、野球部は県大会ベスト8に輝きました。また、頓原中学校吹奏楽部は中国大会に出場し、開校以来初の「金賞」に輝き、赤来中学校野球部は、初の開催となった、島根県新人戦で見事に優勝の栄に輝きました。これらを始めとして、本町の小・中・高の児童、生徒の皆さんが色んな分野で大活躍し、私たち町民に大きな喜びと感動を与えてくれました。今後も本町の若者たちが大いに活躍することを期待しています。

さて、本年は、本町のまちづくりを進める上で基本となる計画が本格的に動き始める年となります。

「第2次総合振興計画」は、平成28年度から向う10年間の町の

進む方向を示した総合計画です。現在、町民の皆さんをメンバーとした「策定委員会」で、原案を策定いただいております。

計画は、基本理念をこれまでに引き続き、「小さな田舎まちからの生命地域宣言」とし、将来像は「笑顔あふれるまち 飯南町」としました。10年後にも笑顔あふれる町を目指して、地域の力で様々な課題を乗り越え、安心して暮らせるまちをつくらうとするものです。

「地方創生」については、「人口ビジョン」「総合戦略(平成27年度～31年度)」を策定し、年少人口の維持安定に向け、年間40人の出生数を目指します。そして、都会からの人の流れを創り出し、U・Iターン者など定住促進による人口移動の社会動態を年間プラス5人として、2025年の総人口4600人を維持するところとしました。

計画では、「まちぐるみで子どもを育てる」まち、「女性が自分らしく輝く」まちを目指し、必要な取り組みを行うこととしています。特にU・Iターン対策は重要であり、それぞれの集落と密接に連携した取り組みを進めることとしています。

本町の基幹産業である農業につきましては、今後の5カ年を計画期間とする「農業振興計画」を策定しました。

本町の農・畜・林が有機的に結びついた、環境に優しい循環型農業の展開を基本として、農家の所得向上、担い手の育成などを進めてまいります。

TPPの今後の影響が懸念される中、JAしまねで整備された「飯南カントリーエレベーター」「畜産総合センター」などを活

用し、施設園芸部門をはじめ必要な支援を強化し、TPPに負けない飯南町農業を振興してまいります。

「安心な暮らしを守る」は私の公約の一つであり、特に高齢化が進む本町にあつては、町民の皆様の生活をしっかりと支えることが求められています。

医師をはじめ医療従事者の確保が非常に厳しい中、飯南病院では角田院長を先頭に、「この地域を担う病院」「住民に信頼される病院」として、成長を続けています。飯南病院が中心となって、さらに一層、保健・医療・福祉・介護の連携による安心のまちづくりを進めてまいります。

また、昨年実施した町営バスの運行についてのアンケートを基に、効率的でより利用しやすい運行に改善し、細やかな交通サービスを提供してまいります。

観光・交流事業の様々な分野への波及効果は、大きなものがあります。「飯南町観光協会」を中心に、本町ならではの文化や技術、自然資源などを情報発信してまいります。

4月末までには、新庁舎・頓原基幹支所が竣工し、システムの稼動試験を経て、5月には新しく業務を開始します。心新たに皆で力を合わせ、安心・安全、活力あふれる飯南町を築いてまいります。

本年も町行政の推進に町民の皆様の一層のご理解とご協力をお願い申し上げますとともに、町民の皆様のご健康とご多幸を心からお祈りし、年頭の挨拶とします。